

JASS 俳句サークルの22年

☆サークルのあゆみ

JASS の俳句サークルが発足したのは平成 5 年 11 月。4 月に運営委員となった橋爪氏が『JASS ネット』に掲載し、メンバーが揃ったところで開始したものです。小生も入会。

橋爪氏は当時現代俳句協会の役員をしており、俳句サークルの世話役だけでなく、ご自分の JASS イベントも併行して実施、小生と協力しあった仲でした。

発足した俳句サークルは、俳句結社の体裁にとられず、自由に句会を運営してきました。そして、素人にもやさしく、丁寧に指導していただきました。

平成 10 年 8 月に橋爪氏が退任し、同年 9 月からメンバーの酒井氏が世話役に就任して会を継続。平成 17 年 4 月からメンバーの木村氏が世話役に就任。さらに平成 19 年 7 月からは、メンバーのひとり村上氏が世話役に就任、今日に至っています。

☆句会のあらまし

俳句サークルの句会は、現在は国立オリンピック記念青少年総合センターの会議室で、毎月 1 回開催しています。(JASS ネットに掲載)

当日は午後 1 時に会議室が開きます。入室し席について、以下の手順で進行します。

- ①月の兼題 2 句、当季雑詠俳句 4 句を「短冊」4 枚別々に記入し、出句台に分けて置く。
- ②「俳句一覧」用紙に 4 句を記入して、これを当日の披講者(読みあげる人)に渡す。
- ③全員の出句を確認してから世話係が短冊をかき混ぜ各メンバーに均等に配る。
- ④メンバーは配られた短冊を見ながら「清記用紙」に書き写す。
- ⑤記入された「清記用紙」を回して、記入ミスをチェックする。
- ⑥回ってきた「清記用紙」を見て、良句と思う句をノートに書き取り、評価する。
- ⑦優れている句を 7 句「選句用紙」に書き込み、その中で一番と思う句に「特選」の○印をつける。

⑧全員が当日の披講者に「選句用紙」を渡し、集まったのを確認して、披講が始まる。

⑨披講者が「選句用紙」を順々に読み上げ、作者の名乗りを受けて、メンバーは手元にある「清記用紙」の上部に○印を付け、下部に作者名を記入する。

⑩最後に、高得点句の批評、特選句についての全員のコメント、雑談などで閉会となる。

句会は以上のように進行するわけですが、やってみれば直ぐに身につくものです。

☆俳句の効用について

俳句を作るためには「歳時記」または「季寄せ」、「辞書」または「電子辞書」を備える程度ですみます。そして、実作しながら俳句の参考書、句集などを読むなどしますが、まずは俳句の世界にふれることが一番。やはり実際に俳句を作ってみるほうが、近道のようなのです。

多分に自己満足ではありますが、自分にとってはかけがえの無いものとなっています。俳句に関しては、ただか 20 年ほどのお付き合いですが、心身ともに健康につながる、身近な文芸としての俳句をお勧め致します。

☆俳句関連イベント

なお、俳句づくりに関連して、俳句がらみのイベントを実施してきました。平成 15 年の〔東京文学散歩〕シリーズ〔俳人編〕の「松尾芭蕉」「正岡子規」「高浜虚子」を皮切りにして、以後「子規句碑めぐり・上野～日暮里」、〔武蔵野探勝今昔〕シリーズで「青梅の吉野梅郷」「狭山が原の茶畑」「大泉学園の妙福寺」「府中のけやき並木」「野火止の平林寺」「村山の多摩湖」「古刹の深大寺」「遊園地の豊島園」「多摩横山の百草園」を実施、さらに〔下町句碑めぐり〕では「両国コース」「向島コース」「浅草コース」「千住コース」を実施してきました。今後もテーマが見つかり次第、継続する予定です。

記 運営委員・JASS 俳句サークル会員
村井源治